

令和 8 年度第 1 回帯広市環境審議会 議事録（概要）

○日時：令和 8 年 7 月 3 0 日（木）10:00～11:30

○場所：ソネビル 6 階 講習会室

○出席者：

- ・ 委 員：宗岡委員（会長）、門委員（副会長）、有働委員、河村委員、熊野委員、鈴木委員、永田委員、浜野委員、森下委員、谷地委員、山口委員、横堀委員、吉田委員（13 名）
- ・ 事 務 局：大橋都市環境部参事、岡田環境室長、大橋環境課長、小松環境課長補佐、林係長、勝野係長、東主任、阿部主任補、阿部係員
- ・ 他課説明員：桑嶋清掃事業課長補佐
- ・ 傍 聴 者：報道関係者（1 名）

○配布資料

- ・ 令和 7 年度帯広市環境白書
- ・（資料）ゼロカーボン啓発チラシ

○次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 議事
 - （1）報告事項
 - ・ 帯広市環境白書令和 7 年度版について
- 4 閉会

議事（１）報告事項 帯広市環境白書令和７年度版について

令和７年度版帯広市環境白書について、事務局より説明。

第１章 帯広市の環境行政

委員からの意見・質疑

◆１人当たりの温室効果ガス排出量（７ページ）について

【委員】１人当たりの温室効果ガス排出量についてです。２０２０年度からは下がっているけれど、このペースだと目標達成に向けてかなりダイナミックに変化させていかなければならないと思うのですが、これをいかに達成していこうと考えていらっしゃるか教えてください。

【事務局】ゼロカーボンの達成については目標自体がかなり厳しいこともあり、帯広市、事業者、市民が一体となって進めていかなければならない取り組みと考えております。令和５年度速報値の分析結果としては、最も割合の高い「家庭部門」の進捗が一番遅れており、家庭部門における取り組みの強化が一番の課題と捉えております。帯広市では再生可能エネルギーや省エネルギーの各家庭における普及を促進するための補助制度を持っておりますので、こちらで導入を進めるとともに、住民一人ひとりの省エネに対する意識啓発が重要と考えております。環境交流会などのイベントを通じた啓発活動に加え、本日配布いたしましたゼロカーボンの啓発チラシなどを活用して取り組みを推進していこうと考えております。

【委員】もし達成できなかった場合、何かペナルティのようなものがあるのでしょうか。

【事務局】ペナルティというものはございません。国や多くの自治体を含めて「２０５０年ゼロカーボン」が最終目標になっており、２０３０年はその中間目標という位置づけです。仮に達成できなかった場合に国から何かペナルティが科されるというものではありません。

【委員】わかりました。私たちの生活に直接跳ね返ってくる問題のため、気候危機による猛暑や大型台風など、生活がしにくくなっていく中で、一人ひとりがしっかり考えなければいけない問題だと改めて思いました。世界共通の目標ですので、なんとしてでも達成しようという意識を市民全員に広げる啓発活動が重要になってくると思います。

第２章 環境の状況と施策の実施状況

第１節 地球環境の保全

委員からの意見・質疑

◆CO2 排出量推移（７ページ）について

【委員】炭素排出量のグラフを見ると、2013 年を基準に 2030 年の目標値に向けて、まだまだ実績値が高い状態が続いています。毎年しっかり下げていかないといけないのですが、2023 年のデータを見ても、なかなか思うように下がっていないのが現状です。猛暑の年は冷房使用が増えて排出量も増えがちで、今年は比較的涼しかったものの、2030 年の目標達成にはプラスアルファの努力が必要だという認識を、審議会の委員で共有しておきたいと思います。

第 2 章 環境の状況と施策の実施状況

第 2 節 自然共生社会の形成

委員からの意見・質疑

◆特定外来生物対策（18 ページ）について

【委員】アライグマの対策についてお聞きします。環境課としてはアライグマを中心に進めているのでしょうか。それとも他の特定外来生物（ザリガニやマルハナバチなど）も対策しているが白書には掲載していないだけでしょうか。

【事務局】アライグマに関しましては、農業被害対策としては農村振興課が担当し、環境課では個体数抑制（生物多様性保全）の観点から春先の春季捕獲を行っています。掲載はしていませんが、アレチウリやウチダザリガニの対策を行っており、ウチダザリガニにつきましては夏休みに子供向けに捕獲して試食する環境教育イベントなどを実施しております。

【委員】そうした対策も白書に掲載してほしいと思います。アライグマの捕獲数の増加が「罌を増やしたから」なのか「個体密度が高まっているから」なのか、どちらが原因とお考えでしょうか。

【事務局】罌の台数を増やしているというわけではなく、個体数そのものが増えております。

【委員】グラフだけでは読み取れないので、単位面積あたりの個体数などで示してもらえるとより分かりやすいと思います。

【委員】捕獲数だけでなく罌の数なども合わせて表示するとより分かりやすくなると思います。また、ウチダザリガニのような特定外来生物は、外来生物法により無断での移動・持ち帰りが違法になります。現地で捕って食べるのはよいですが、持ち帰ると法律違反になるため、正しい扱い方を含めた環境教育をしっかりと取り入れていただきたいと思います。

第 2 章 環境の状況と施策の実施状況

第 3 節 生活環境の保全

委員からの意見・質疑

◆河川水質（25 ページ）について

【委員】帯広川の下流（札内川合流点）の水質サンプリングについてです。雨の前後などで数値が変わると思うのですが、毎月の測定は決まった日に行っているのでしょうか。それともランダムでしょうか。

【事務局】測定はあらかじめ決めた日に行っているのではなく、前日の大雨などで数値が大きく変動するのを防ぐため、概ね天候が安定した晴れまたは曇りの日を予測して測定を行っております。

【委員】補足すると測定地点の帯広川の下流は勾配が非常に緩く流速が遅く、どんよりしているため、見かけの BOD が高くなりやすい特徴があります。

◆PFAS（有機フッ素化合物）（25 ページ）について

【委員】全国的に話題になっている PFAS（有機フッ素化合物）について、帯広市の河川等での測定状況や公表の予定はありますでしょうか。

【事務局】河川等における PFAS の環境基準や規制基準は国でまだ設定されていませんが、水道水については基準値が設定されているため、稲田浄水場で測定した結果を、ホームページで公表しておりますのでご参照ください。

◆ヘリコプターの騒音（30 ページ）について

【委員】緑ヶ丘公園で開催された氷まつりで少年院跡地の上空をヘリコプターが飛行しており、住宅地の真上を低空飛行するのはいかがなものかと感じており、状況の把握に努めて、丁寧な対応をお願いしたい。

【事務局】今後も氷まつりでヘリコプターの飛行が行われるかはわからないが、もし行われる場合は、事前周知が必要と考えているため、関係部署（経済部等）と情報共有し、事前周知に努めてまいります。

◆アスベスト（24 ページ）について

【委員】アスベストを使った建物の解体に、なぜそんなに費用がかかるのですか。普通の家解体とは何が違うのでしょうか。

【事務局】アスベストは体内に入ると健康被害を引き起こすため規制が厳しく、飛散防止のための囲いやネットが必要になるため、通常より費用がかかります。

【委員】アスベストを含む建物の解体に対して、補助などはないのでしょうか。

【事務局】建築開発課や北海道に相談すれば補助が受けられる場合もあるかもしれません。

【委員】実は自宅の隣に、アスベスト含有のため解体費用がかかりすぎて壊せない建物があります。次回でも構いませんので、補助制度について情報をいただけると助かります。

【事務局】現在、帯広市では、解体費用の補助はしていませんが、担当部署の方にこういった意見があったことを伝えます。

◆pH 測定値（24 ページ）について

【委員】平成 28 年度と令和 6 年度の積雪 pH が特に低い値になっていますが、どのような理由でしょうか。

【事務局】平成 28 年度は海側から山を越えて流入した大気中の汚染物質が影響したと聞いています。令和 6 年度は、測定直前まで雪がほとんど降っておらず、大雪が降ったタイミングですぐ測定したため、酸性を中和するアンモニアや除雪剤が含まれず、酸性度が高まったと考えています。

【委員】過去に 2 年間サンプルを取った経験からすると、降水量や積雪量が少ない方が pH が低くなる傾向があります。汚染物質が少量の水に凝縮されるためです。大雪の後に測定して低いというのは、少し逆の解釈になる気もします。データは事実として、解釈についてはいろいろな見方があるかもしれません。

◆地下水標高のグラフに（34 ページ）について

【委員】地下水標高のグラフ（図 21）について、標高が上がるということは地下水が増えているのか、減っているのか、この標高は何を表しているのか教えてください。

【事務局】標高が上がるほど、地下水も上がっているものと認識しているが、確認して、改めて説明します。

【委員】測定値の標高を示して、それに対して、地下水が何 m 近づいたと評価すると、地下水位が高いと数値は小さく、地下水位が下がれば数値が大きくなる方がわかりやすいと思うので、整理した方が良いと思います。

【事務局】確認して表現方法を検討させていただきます。

第 2 章 環境の状況と施策の実施状況

第 4 節 循環型社会の形成

委員からの意見・質疑

◆食品備蓄と食品ロスに（43 ページ）について

【委員】災害に備えた食品備蓄（ローリングストック）は、無駄な廃棄を減らして、防災意識を高めようというものであり、廃棄を減らすというところで、環境につながっているものと考えています。十勝は、災害の可能性が高い地域ですのでこういったことも、白書に記載したら良いかと思います。先日、弊社でも防災クッキングとして、ローリングストックの料理教室を開催しました。各企業がこういった取り組みを行って、市民のみなさんに知ってもらうのが良いと思います。

【事務局】日常生活の中で、ごみを減らすためにはどうしたら良いかという観点で周知啓発しているが、

防災の観点も含めた周知啓発も検討してまいりたいと思います。

◆牛乳パックのリサイクル（44 ページ）について

【委員】学校での牛乳パック回収は、アレルギーの関係もあって、扱いが難しく、回収が難しい学校もあると聞いています。自分達が集めたものがどのようにリサイクルされているのかが子供たちに見える形になると、よりリサイクル意識が高まると思います。

【事務局】環境学習の中で紙として集めたものは、トイレットペーパーに生まれ変わりますという説明はしている。リサイクルが進めば、ごみ減量につながるので、一人一人に伝わるよう、継続して啓発を行ってまいりたい。

【委員】日高の小学校では、先生と児童たちが一緒に廃品回収して、交流学習で沖縄に行く代金に充てている。街の人もそのことを共有しているので、結構な額になっているそうです。お金になることは、資源として活用されていると子供達もわかるので、そういう形で戻ってくると、モチベーションはすごく高まると思いました。

【委員】例えば、こういった資源で何千トン集まりました、全部でいくらになりました、そのお金で今日は体育館のバスケットゴールの網を買いましたなど、具体的なものを教えてあげると、効果が子供達にも見えるのかなと思いました。

◆表の単位表記（42 ページ）について

【委員】表 23、26 で、表中の数字の横に全て「トン」と単位が書いてあります。他の表と同じように、表の右上等に「単位：トン」と記載した方が良いと思います。

【事務局】次回より表記を改めます。

第 2 章 環境の状況と施策の実施状況

第 5 節 市民参加と広域連携

委員からの意見・質疑

◆十勝バイオマス産業都市構想（49 ページ）について

【委員】現在、十勝管内には 58 基のバイオマスプラントがありますが、FIT（固定価格買取制度）の 20 年間の固定価格期間終了に伴い、売電価格が下落し、発電事業の継続が困難になるプラントが出てくるという課題があります。実際、鹿追町から固定価格買取が終了すると発電事業の継続が難しいので都市ガスとして使ってくれないかとの相談を受け、今年度、天然ガス工場にバイオガス受入施設を整備しました。ローリーで運んできたバイオガスを都市ガス（天然ガス）に混合して活用する取り組みを開始しています。こうした FIT 終了後のバイオガス活用につい

て、地域全体で考えていかなければならない問題であると思います。

【事務局】FIT 終了後の採算性や継続性は市としても課題と認識しております。農政部や経済部とも協議や意見交換を行ってまいりたいと思います。

◆小学校における出前授業（48 ページ）について

【委員】小学校では環境学習などの出前授業を、年間どのくらい実施しているのでしょうか。

【委員】環境に関するものは主に中学年で年 1 コマ程度です。総合学習で SDGs を取り上げる学年では、そのテーマに関わって出前授業を行うことができます。帯広市のスクールコラボ予算も活用して、各学年で年 3～4 コマ程度のイメージです。

白書全体を通しての意見等

◆農薬及び放射性物質の測定について

【委員】ネオニコチノイドという農薬でミツバチが減少し、受粉ができなくなるような問題になっているが、その辺りは把握されているか。

また、放射性物質の測定データ等の測定、公開状況はどうなっているか。

【事務局】環境課では、特定の農薬に関する調査はしていません。また、放射性物質の測定についても、定常調査としては実施しておりません。

◆ペロブスカイト太陽電池の導入について

【委員】ペロブスカイト太陽電池など、新しい技術が開発されているが、市として、試験的に公共施設等に導入する考えはあるか。

【事務局】現在、ペロブスカイト太陽電池は、国で実証実験が進められていますが、シリコン型パネルが耐用年数 20～30 年であるのに対し、ペロブスカイトは現状 5～10 年程度と耐久性に課題があります。技術の進展や耐久性の向上の動向を見極めている段階であるが、今後は公共施設への導入などを検討してまいりたいと考えております。

【委員】設置コストが安いので、まず市民に身近な場所で試験導入してみてもはどうでしょうか。導入してみて、良ければ自然と普及していくと思います。ぜひ実験的な取り組みをお願いします。

◆ローリングストックのレシピ（防災クッキング）とバイオガスの都市ガス活用について

【委員】先ほど話をしましたローリングストックの料理教室は、2 日で申し込みの枠が埋まってしまうほど反響がありました。今後も継続していきたいと思います。

◆各委員より全体を通して

- 【委員】家庭での CO2 排出削減の行動も大事ですが、建築物・施設から出る CO2 も大半を占めているため、公共施設等の設計・整備においても連携しながら貢献していきたいと感じました。
- 【委員】温室効果ガス削減には家庭部門の強化が必要とのことでしたが、広報と一緒に配布した啓発チラシをみてもピンときませんでした。具体的に家庭でこれをやったら、これだけ減りますよというのがあると市民が取り組みやすくなると思います。また、啓発チラシに公共交通機関の利用が推奨されていますが、実際にバスを使おうとしたらバスの本数が 2～3 時間に 1 本に減っていました。不便なく公共交通機関を利用できるようにしていただきたいです。
- 【委員】食品ロス削減に関連して、家庭や事業者で余った食材・保存食を防災クイズのイベントに来てくれた方に配布するというのをみてすごく良いと思ったので、そういった食材を、子ども食堂で活用されると良いなと思いました。
- 【委員】家庭部門の CO2 排出削減は非常に難しいと感じています。北海道のホームページでは、「ご飯を保温し続けずに冷凍する」といった具体的な取り組みが結構掲載されています。また、私の会社では、エアコンの電気代が月 200 万円かかっているのを、これをなんとかしようと毎月の使用料を職員にわかるようテレビ表示したら、年間で 20%位減りました。市民や事業者が「自分の取り組みで数値が下がった」と実感できる「見える化」が効果的だと思います。
- 【委員】食品ロス削減といった日常で実践しやすい取り組みが白書の中に記載されていると実行しやすいと思います。また、さまざまな取り組みの実績がたくさん書かれていて、市民や企業の意識向上や知識普及などが目的と思っていますが、その成果として、参加者の行動変容、意識の変化は把握されているのか、それを評価したものが知れたら良いなと感じました。